

日本の金資源を再評価

TSXV | JG OTCQB | JGLDF

2026年6月

An aerial photograph of Japan, showing the main islands and surrounding waters. The image is dark blue, with the landmasses appearing in a lighter, textured blue-grey. In the bottom right corner, there is a large, red, circular logo with a distressed, ink-like texture. Inside the logo, the words "JAPAN GOLD" are written in a bold, white, sans-serif font, with "CORP." in a smaller font below it.

JAPAN
GOLD
CORP.

将来の予想に関する注意事項

所定の記述や本書記載の情報はブリティッシュ・コロンビア州証券法(British Columbia Securities Act)の下における「将来予想情報」です。これらの記述は将来の事象もしくは将来の当社業績に関するものです。既存事実に関する記述以外の記述はすべて将来予想に関する記述である可能性があります。将来予想に関する記述は一般的に、「予想する」「計画する」「予算を組む」「予定する」「継続する」「推定する」「予測する」「見込む」「見込まれる」「見通す」「提案する」「可能性がある」「目標とする」「意図する」「考える」その他これら同様の文言や語句や、あるいは所定の行動、事象あるいは結果が「...かもしれない」「...しうる」「...であろう」「...であるかもしれない」、「なされることになる」「起こる」「達成される」といった記述など、将来予想に関する語彙によって見分けることができます。これらは否定形であっても同じです。これらの記述には、既知もしくは未知のリスク、不確かさ、その他の要因で、かかる将来予想に関する記述にて予想された結果や事象と実際の結果とを実質的に相違させうるものを含みます。当社はかかる将来予想に関する記述に示された予想は合理的と考えていますが、予想が正しいことが証明されるという保証はできません。実際の結果に相違が出る可能性があるため、本ウェブサイトの閲覧者はここに含まれた将来予想に関する記述を過度に信頼すべきではありません。本ウェブサイトでは特に、次に関する将来予想に関する記述を記載しています。すなわち資本支出計画、資源開発、政府規制および税制への対処、当社の資金調達能力に関する見込み、事業地に対して投下する当社支出、作業実施計画などです。上記および本ウェブサイトに含まれる将来予想に関する記述につきまして、当社は日本における採掘や探鉱その他に関する許可、競争激化による影響、金、銅その他鉱物の予測不能な市場価格変動、日本の当社事業地における探鉱開発費用、追加資金調達/探鉱権譲受もしくは共同事業パートナー取得の可能性、探鉱および開発活動の結果予想、満足できる条件での当社の追加資金調達能力などに関して仮定していますが、仮定はこれらに限るものではありません。当社による実際の結果は、次および本ウェブサイトに記載されたリスク要因の結果として、将来予想に関する記述と実質的に異なることになる可能性があります。すなわち鉱物市場価格の乱高下、推定の情報源の不確かさ、地理的/技術的/ボーリング/工程上の問題、環境上のもや鉱山運営に本来伴うものを含めた責任とリスク、為替や金利の変動、買収価額査定における過誤、探鉱活動の予期せぬ結果、資本、未開発地および技能工〔の獲得〕など諸々における競争、追加資金調達/探鉱権譲受もしくは共同事業パートナー取得における困難、予測不能な天候条件などです。当社は将来予想に関する記述の内容と結果との間に実質的な相違をもたらしうる重要な要因の同定に既に努めてはいるものの、予期、推定もしくは意図しない結果をもたらす他の要因があるかもしれません。実際の結果や将来の事象がかかる記述において予想された内容と実質的に異なる場合があることから、こうした記述の正確性が証明されることになるという保証は一切ありません。したがって、閲覧者は将来予想に関する記述を過度に信頼すべきではありません。閲覧者は上記の要因がすべてを網羅しているわけではないことにご注意ください。適用する証券法に準ずる場合を除き、当社は新たな情報や将来の事象その他のいかに関わらず、いかなる将来予想に関する記述の更新もしくは修正にも義務を負いません。本書における記述情報はJapan Gold社の副社長探鉱担当のジェイソン・レット氏の審査を経ています。レット氏はここにおいて検討されている鉱床につき十分な経験を有し、カナダの鉱物資源に関する情報開示基準(National Instrument 43-101)に基づく有資格者です。

全ての画像はJapan Gold Corp.所有

日本で高品位の浅熱水性金鉱床を採鉱

Japan Goldは、カナダ・トロント証券取引所（TSXベンチャー部門）に上場する企業であり、日本における高品位金鉱床の採鉱に注力しています。Japan Goldは、高度な技術力と先進的な採鉱アプローチを活かし、広範な鉱区で採鉱を進めることで、企業価値のさらなる向上を目指しています



なぜ日本?

JAPAN
GOLD
CORP.

- 高品位金鉱山開発及び採掘の歴史がある
- 現代的な探査手法では十分に調査されていない
- 事業を支える整備された社会基盤
- 透明性のある許認可制度

Japan Goldの特徴

- 2012年の改正鉱業法施行後、最初に日本で探鉱を開始
- 探鉱及び鉱山事業に精通した経営陣
- 北海道及び九州を中心に 広範囲に鉱区を保有
- 許認可取得・管理体制および自社運営の試錐技術チーム
- 新たな鉱床発見を目指し積極的に試錐を実施

日本の金鉱山

金鉱山の歴史

戦前期における金生産鉱山 - 76鉱山

- 佐渡鉱山 - 250万オンス (約78トン)
- 鴻之舞鉱山 - 235万オンス (約73トン)
- 串木野鉱山 - 180万オンス (約56トン)
- 鯛生鉱山 - 110万オンス (約34トン)
- 高玉鉱山 - 93万オンス (約29トン)
- 山ヶ野鉱山 - 90万オンス (約28トン)

1943年の金鉱山整備令で全金鉱山が休止・閉山

戦後、国内での金鉱山の再開及び金探鉱は十分に行われなくなった

1981年:地表に露出していない 金鉱体（潜頭性鉱床）が発見された

九州

菱刈金鉱床の発見

深度**200m**地点にて**15cm**幅の金鉱脈を確認
（金品位**290g/t**）

1985年: 菱刈鉱山の商業生産開始

約**1300万オンス**（約**403トン**）規模の金鉱床

1985年から2025年の間に金878万オンス（約272トン）を産出

浅い地下で操業される鉱山

環境への影響を最小限に抑えた操業

住友金属鉱山株式会社 菱刈鉱山

¹ 出典及び画像（写真）の出典: 住友金属鉱山株式会社
「統合報告書（2025年9月）」 および同社公式ウェブサイト

鉾山開発に十分な経済的合理性



東予製錬所



画像（写真）の出典: 住友金属鉾山株式会社「統合報告書（2024年8月）」
および同社公式ウェブサイト

日本の稼働金鉾山では、金の生産だけでなく、副産物として得られるシリカ（融材）を国内製錬所に供給しています。この仕組みにより、鉾山事業は採算性が高く魅力的なビジネスモデルとなっています



日本の製錬所（ベースメタル製錬所）は、製錬・精製のために原料を海外から輸入している



自社で製錬所を作らず、鉾石を直接製錬所へ送ることで、開発・操業コストを抑えられる



製錬所では、銅・ニッケル・亜鉛の製錬時に添加するフラックス（融剤）として、シリカを多く含む金鉾石の新たな供給を求めている



低コストで持続可能な金鉾山開発の魅力的モデル



低硫化型金鉾床は、国内製錬所へのフラックス供給に最適。対象となる製錬所は、三井金属、住友金属鉾山、JX金属、三菱マテリアル、Dowaホールディングス、東邦亜鉛などの大手企業が所有



例: 菱刈鉾山

- 金の鉾化は主に石英および氷長石に集中しています
- 鉾石は手選鉾または機械選鉾によって選別され、直接東予製錬所へ搬送・精錬されています
- この仕組みにより、操業コスト（AISC）は世界でも最も低い水準を実現しています



日本国内には複数の製錬所が存在する

確かな技術と能力を持つ事業者による探鉱



- 2012年**
- ・ 鉱業法の改正：資金力・技術力を有する信頼ある企業のみ、探鉱が許可される
- 2016年－2025年**
- ・ 先駆者として、**Japan Gold** が国内最大規模の鉱区を取得
 - ・ 過去に生産実績のある金鉱山および菱刈鉱山の周辺地域を含む、約**3,000**平方キロメートルの高ポテンシャルエリアを確保。
 - ・ 全国を網羅する地質データベースを体系的探査で構築
 - ・ 試錐を活発に実施

経営執行陣及び取締役



会長兼取締役
最高経営責任者

ジョン・プルス
(John Proust)

創業者。資源開発分野において35年以上の経営・取締役経験を有する



最高執行責任者
取締役

栗山 隆

探鉱を含む鉱業分野で48年以上の経験を持つ地質専門家。住友金属鉱山に勤務した。2006～2016年にはTeck Resources社の取締役を務めた



最高財務責任者

ビンズ・ブーン
(Vince Boon)

資源分野で15年以上のCFO経験を有する公認会計士



探鉱担当副社長

ジェイソン・レット
(Jason Letto)

Vale社に21年間在籍し、多数の鉱床発見の実績を有する



管理部長

楠井将収

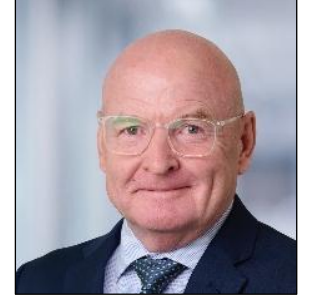
産業および鉱業分野で18年の経験を持ち、そのうち7年間は事業管理業務に従事



広報担当副社長

アレクシア・ヘルガソン
(Alexia Helgason)

IRおよびコーポレートコミュニケーション分野で30年の経験を有し、TSXベンチャー上場企業での実績を持つ



上級技術顧問

フレイザー・マックコーカ
デール
(Fraser MacCorquodale)

金および銅の探鉱で35年以上の経験を持ち、Newcrest社にて豊富な実績を有する



社外取締役

マレー・フラニガン
(Murray Flanigan)

CPA, CA, CFA資格を持ち、CFOおよび経営管理で25年以上の経験を有する



社外取締役

イアン・バーニー
(Ian Burney)

カナダ駐日大使。政府および国際関係分野で30年以上の経験を有する



社外取締役

タネケ・ヒアスケ
(Tanneke Heersche)

Fasken Martineau DuMoulin LLPの元シニアパートナー。資源分野で25年以上の経験を有する



社外取締役

服部恵子博士
(Dr. Keiko Hattori)

オタワ大学名誉教授。専門は経済地質学



社外取締役

マイケル・キャリック
(Michael Carrick)

RTG Mining Inc.の会長。これまでに7つの金鉱山の開発実績を有する



技術顧問

ポール・ハービッジ
(Paul Harbidge)

Faraday Copper社の社長兼CEO・取締役。GT Gold社の元CEOであり、Goldcorp社での勤務経験を有する



顧問

ケイリー・バーカー
(Cailey Barker)

BlackRock社の元ポートフォリオマネージャー。ファンドマネージャー、シニアアナリスト、地質学者としての経験を有する

資本構成



307,249,217

発行済株式数

7,555,000

ストックオプション

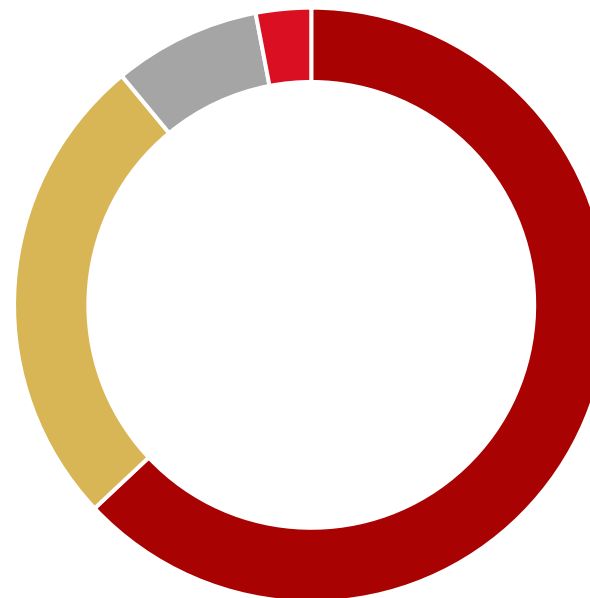
13,696,297

制限付き株式報酬

328,500,514

完全希薄化後発行済株式数

株主構成



機関投資家およびファンド	63%
一般流通株 (一般投資家)	26%
Newmont社	8%
経営陣及び関係者	3%

ロイヤルティの売却
非希薄化型資金調達

500万米ドル
OR Royalties社
(Osisko Gold)

転換社債型資金調達

100万米ドル
包括的データベースを構築
1,740万米ドル



非希薄化型資金調達

OSISKO GOLD ROYALTIES社 ロイヤルティ売却契約の条件

1.5%のネット・スマルター・リターン（NSR）ロイヤルティを対象に、**500万米ドル**で契約を締結
日本国内のJapan Goldの試掘権保有プロジェクトを対象としています

追加オプション

2026年に300万米ドルで追加0.5%のNSRロイヤルティを取得するオプションを保有しています

資金の用途：

ロイヤルティ対象鉱区における探鉱



Japan Gold主要プロジェクト・拠点位置図



プロジェクト創出型ビジネスモデル 複数プロジェクトへの投資機会

26

プロジェクト

57

有望探査地区

74

個別探査対象

長年にわたる計画的かつ体系的な探査により、有望性の高いプロジェクト群を構築してきました。



プロジェクト創出における強み



- 約3,000km²の調査地域を対象とした探査データベース
- 2013年から日本で培ってきた専門知識と経験
- 日本法人・東京本社・現地事務所を設置
- 26プロジェクト・380件の試掘権を管理する許認可チーム
- 高い専門性を有する探査チーム
- 自社による試錐体制
- 新たな鉱床の発見に向けた積極的な試錐

継続的な探鉱プロジェクト推進体制

2026年 探鉱戦略

すくなくとも1ターゲットを上位試錐評価段階に進める

上位試錐評価対象

試錐評価

試錐ターゲットの確定

探鉱ポテンシャル
地域の選定・立案



溝辺

馬上

白龍

愛別

えびの

北鯛生

富来

生田原:
佐呂間-常紋
北の王-昭和

遠原-布計

珊瑚

九州 - 北薩地域

九州 - 中部地域

本州 - 能登地域

北海道 - 北見地域

地域規模で探鉱を展開



北海道北見地域

九州北薩地域

九州

北薩地域

日本を代表する浅熱水性金鉱床地域
累計産金量1,200万オンス（約372トン）以上

1. 菱刈鉱山

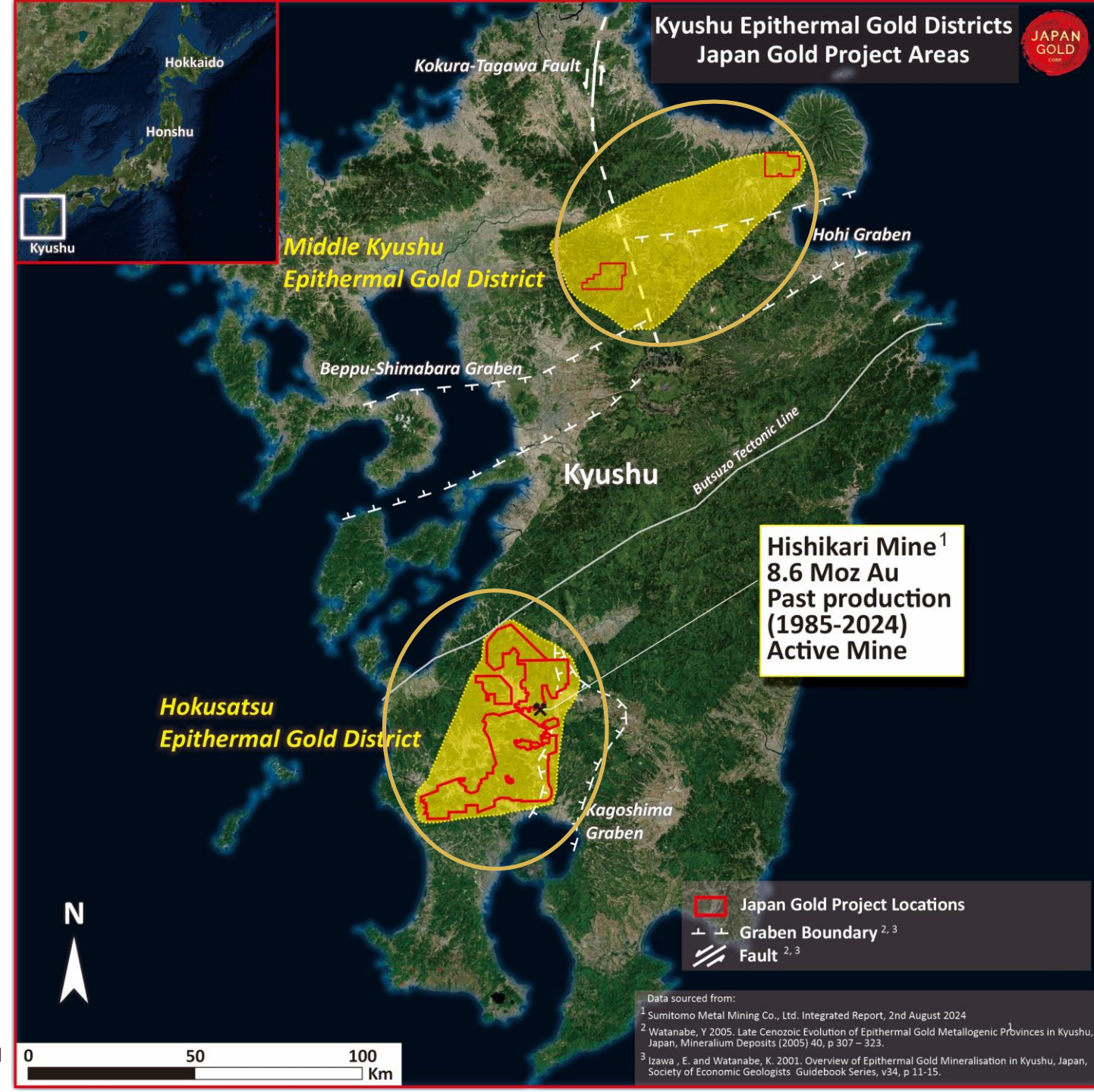
- 約876万オンス（約272トン）
（1985-2025年）
- 世界有数の高品位金鉱山
- 世界平均の5倍にあたる高品位（1tあたり金20g）¹
- 地表に鉱徴を示さない鉱床

2. 串木野 - 180万オンス（約56トン）

3. 山ヶ野鉱山 - 90万オンス（約28トン）

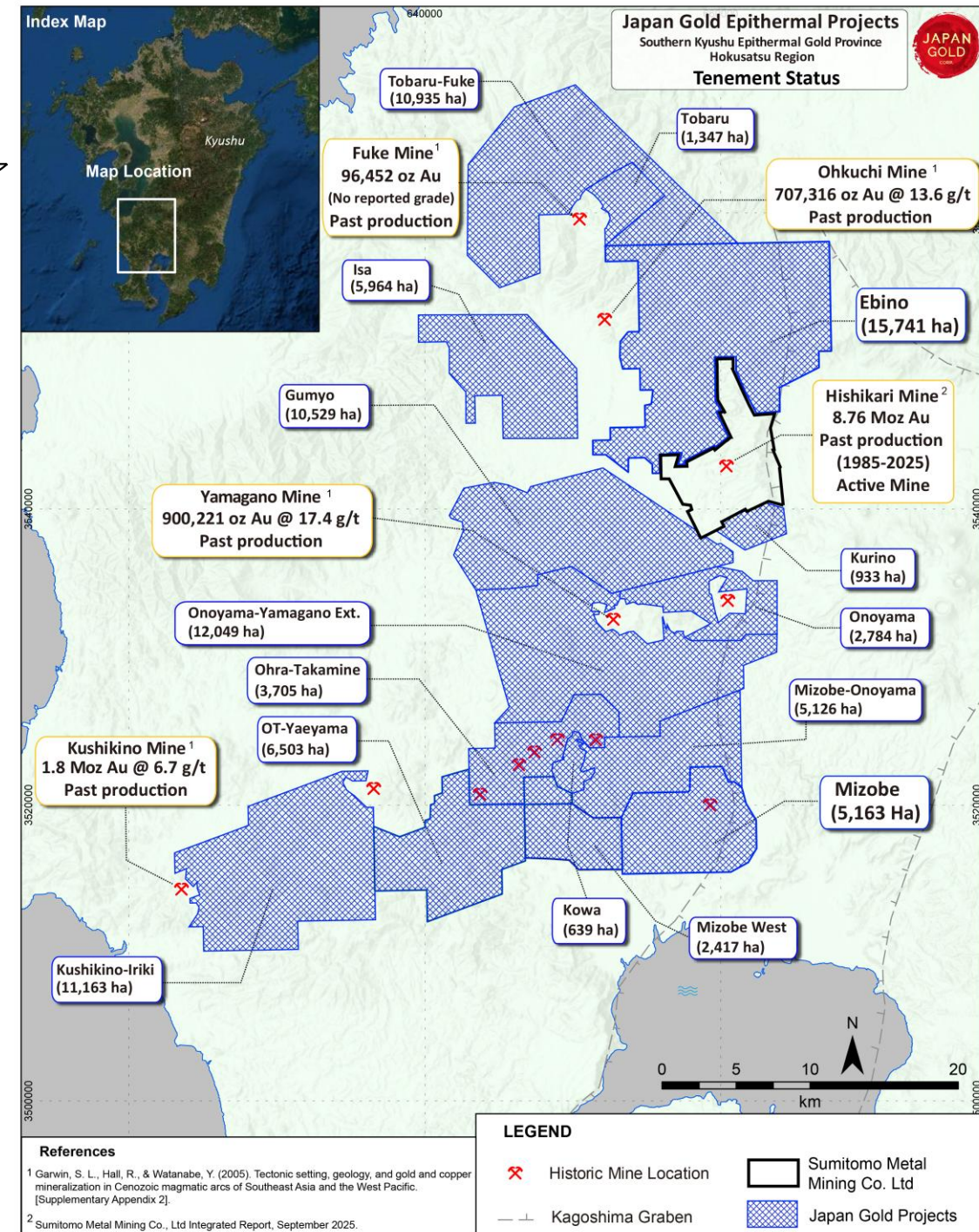
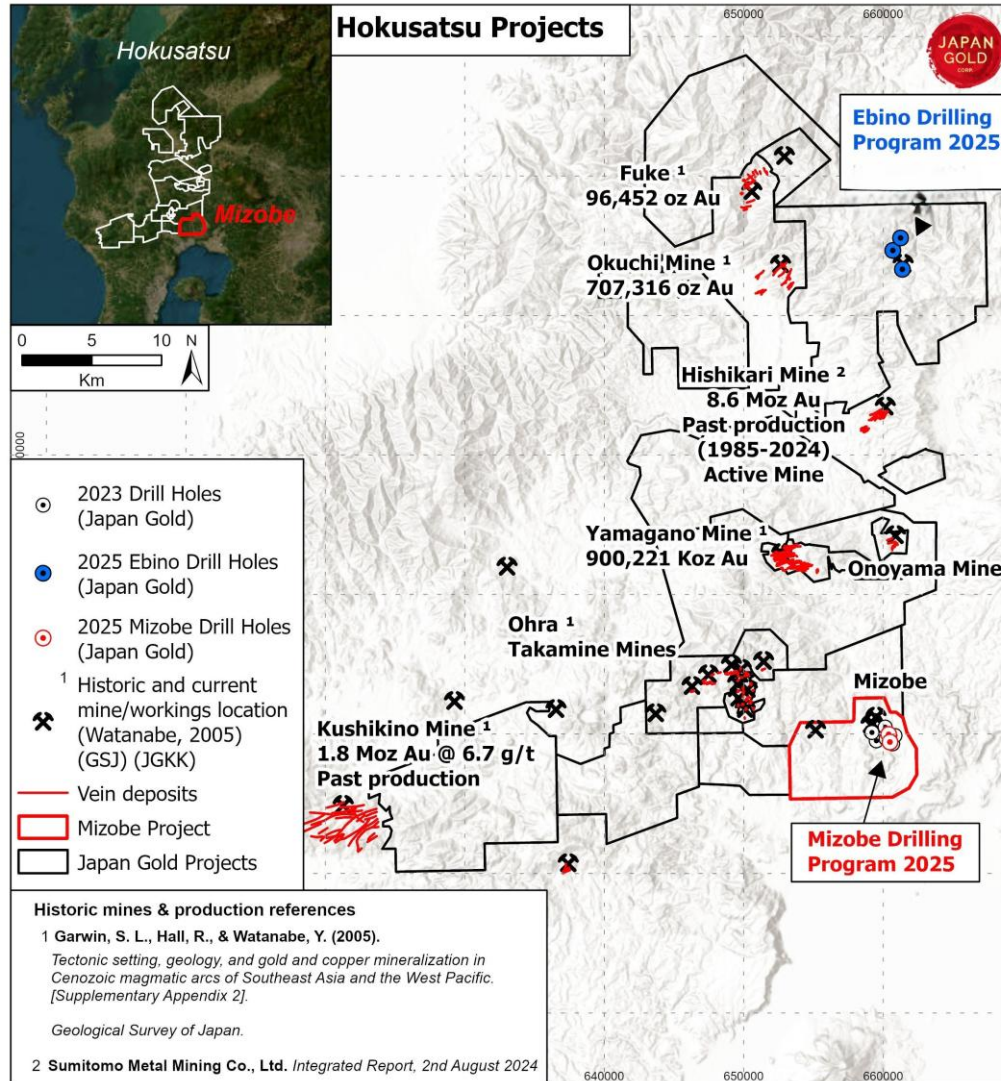
4. 大口鉱山 - 70万オンス（約22トン）

5. 布計鉱山 - 10万オンス（約3トン）



重点探査対象

- えびのプロジェクト – 累計1,528mの試錐を完了
- 溝辺プロジェクト – 累計3,495.9mの試錐を完了



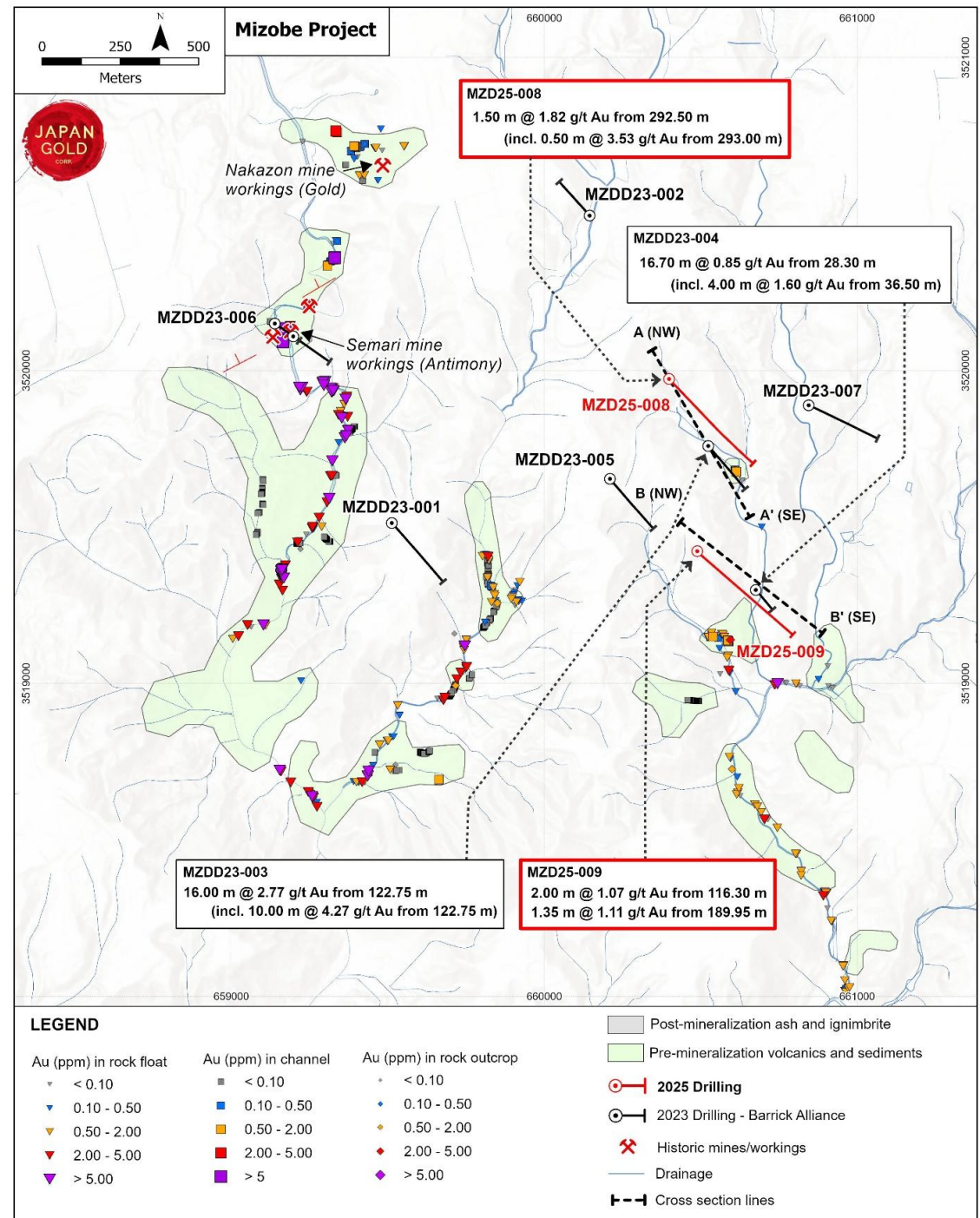
溝辺

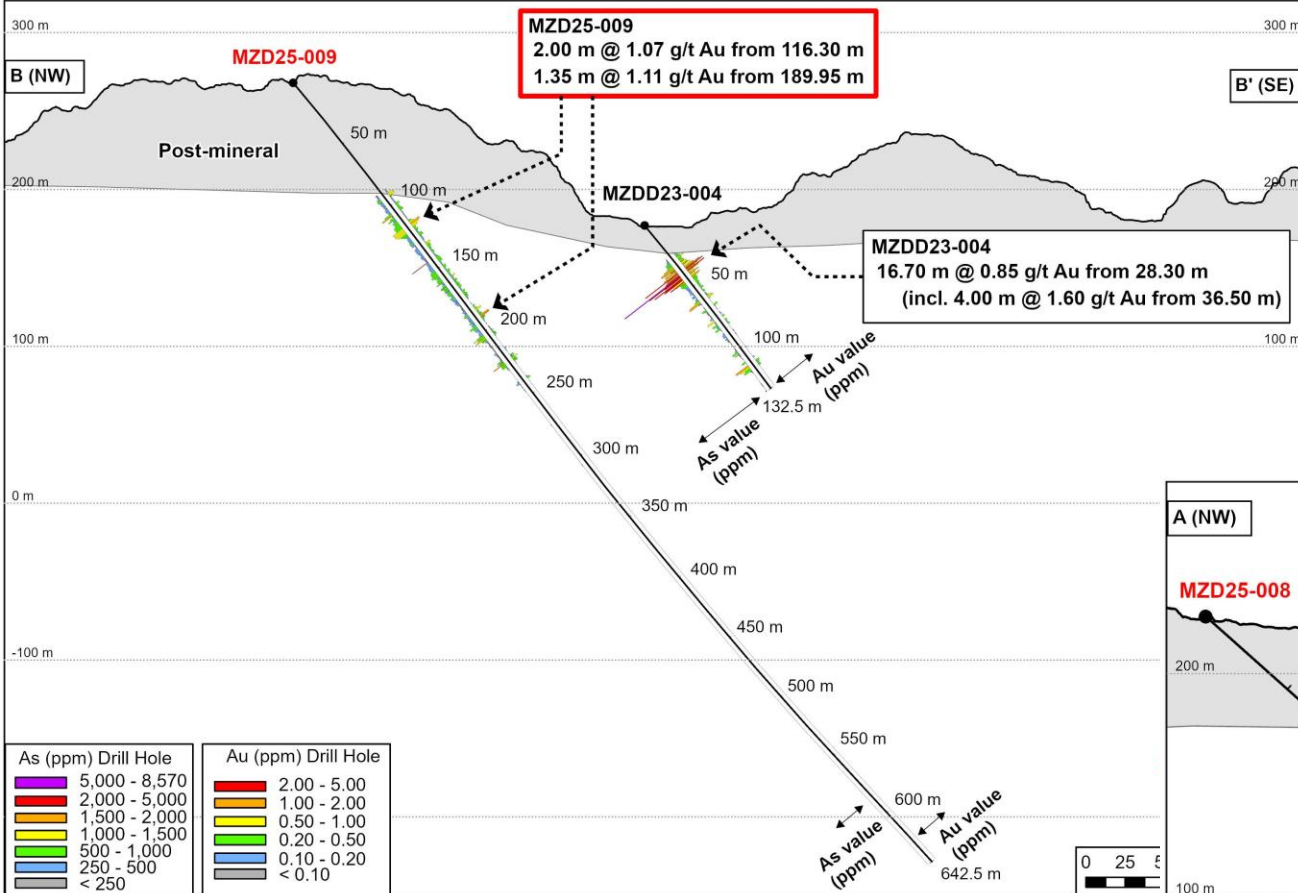
地表に露出していない有望探査対象

- 溝辺 - 計3,495.9mの試錐を完了
- 初期のボーリング調査により、鉍化作用後に堆積した被覆層の下に、**広範な鉍化帯 (Au-As-Sb)** が存在することが確認されました。
- 粘土化・珪化を伴う**変質作用**と、金・ヒ素・アンチモンの地球化学的特徴から、本地域は浅熱水性鉍床システムの上部に位置すると解釈されています。
- 広い間隔で配置した7本のボーリング調査において鉍化帯を確認。主な結果は以下のとおり
- MZDD23-003
122.75m以深で 10.0m間、金品位 4.27g/t
- MZDD23-004
36.50m以深で 4.00m間、金品位 1.60g/t

2025年の試錐

- 2023年に確認された鉍化帯を対象として、総延長1,156mのボーリング調査を実施
- 深度約190.75mにおいて、縞状の玉髄質石英脈を確認





試錐 断面図

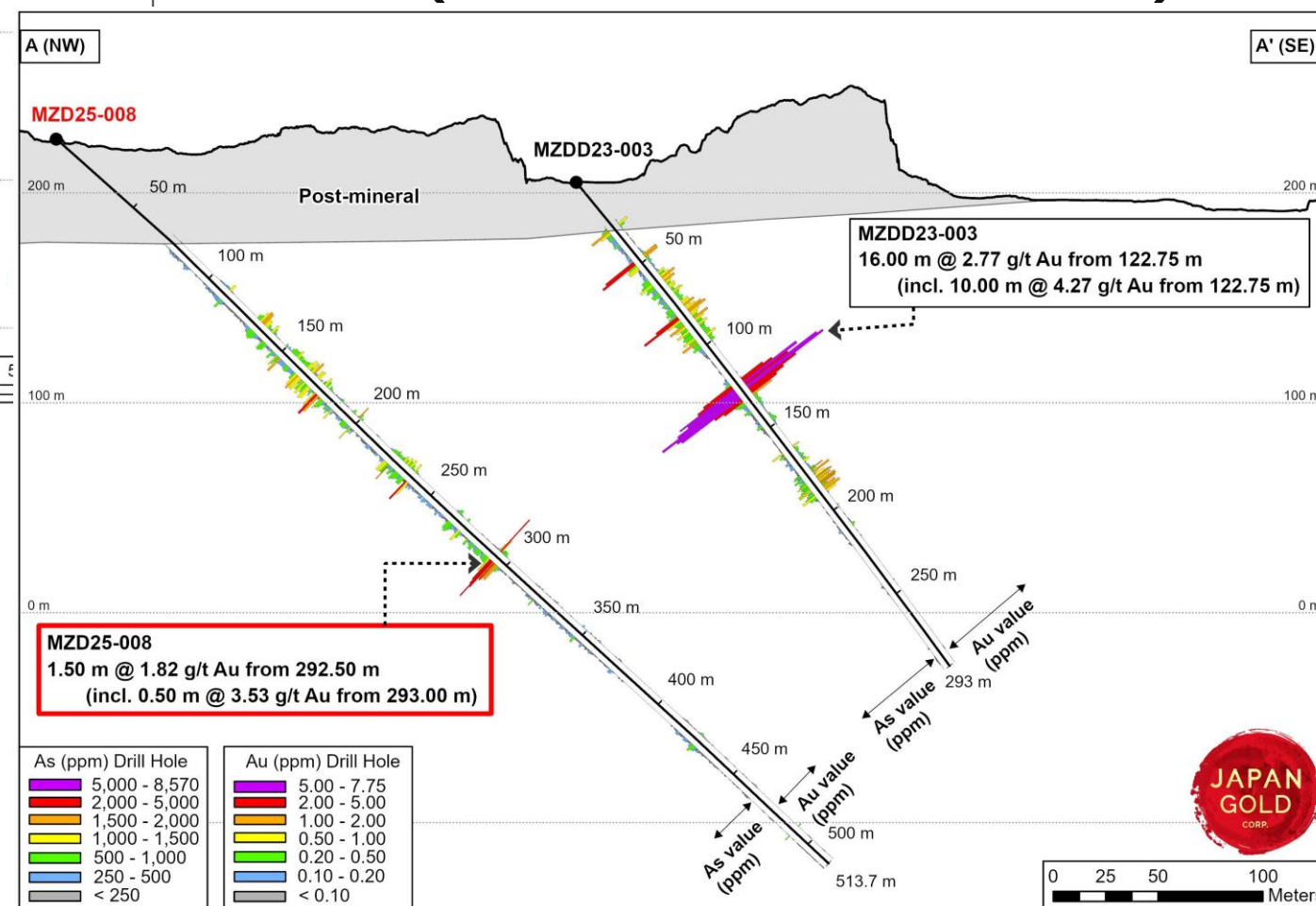
(2025年試錐孔 MZD25-009)

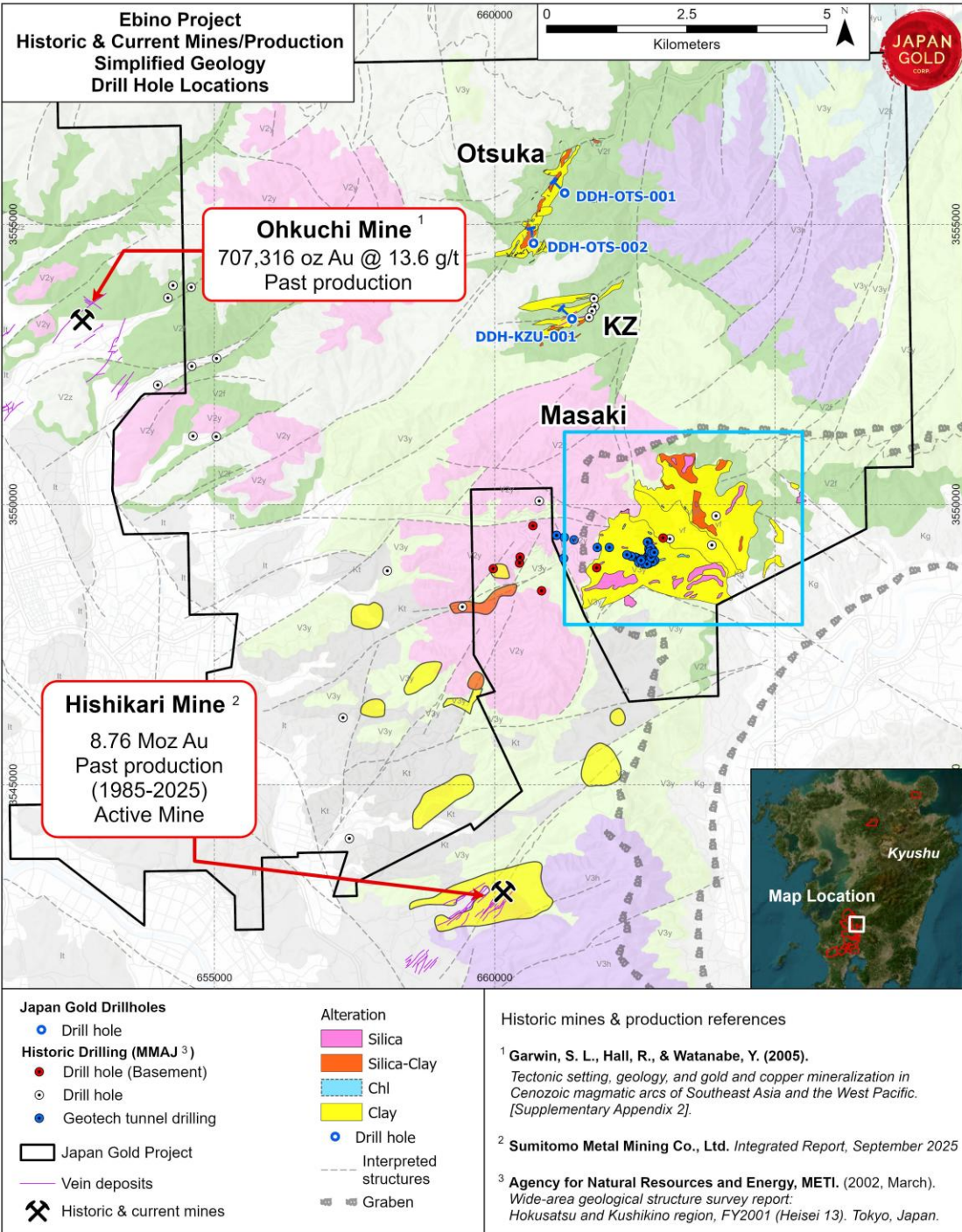
- 深度約190.75mにおいて、縞状の玉髄質石英脈を確認
- 溝辺プロジェクトにおいて、このタイプの鉱脈をボーリング調査により初めて確認

2026年調査計画

- 物理探査の実施
- 試錐ターゲットの絞り込み

試錐 断面図 (2025 年ボーリング孔MZD25-008)

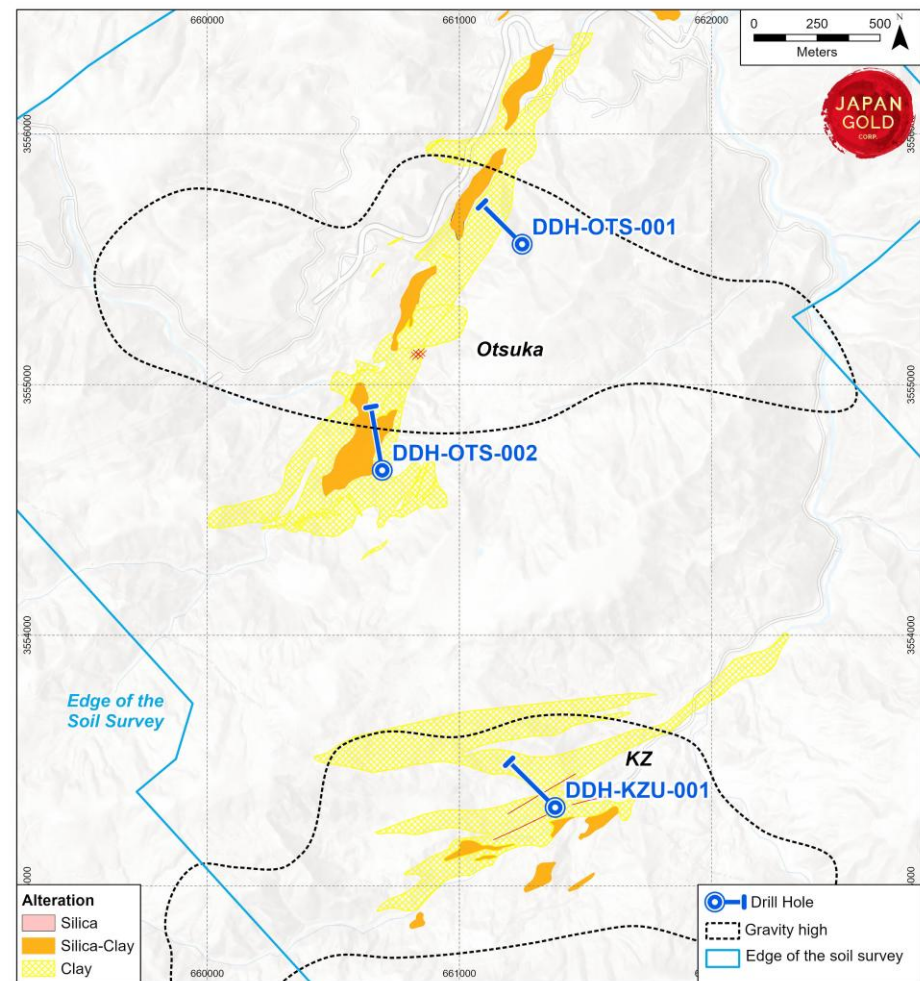




えびの

大塚・桑ノ木津留(KZ)・真幸 試錐ターゲット

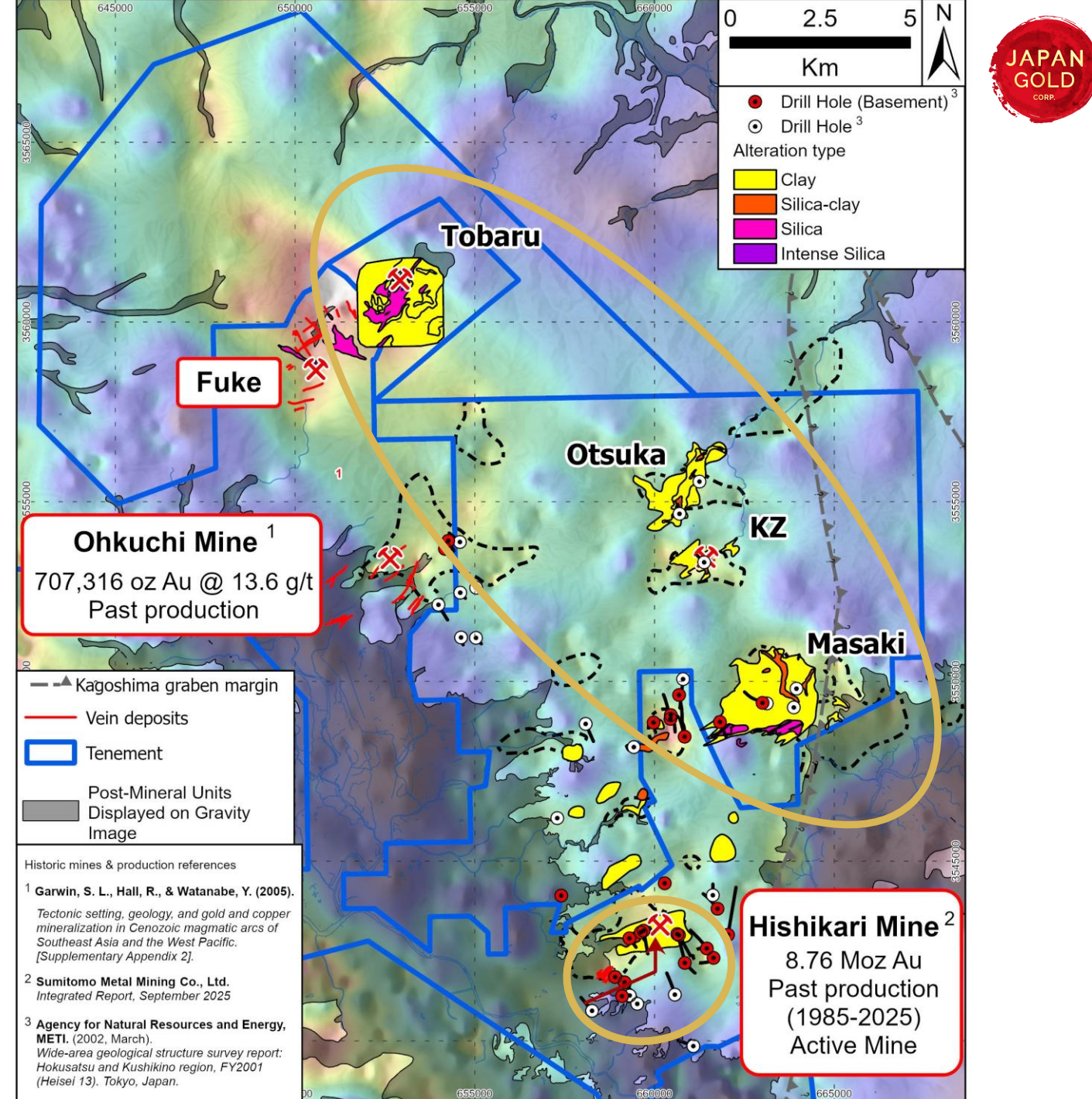
大塚およびKZ 試錐ターゲット：実施した3孔の試錐すべてにおいて、構造規制を受けたカオリナイトおよびディッカイトを含む強い熱水性粘土変質帯を確認しました。



遠原 - えびの

北西方向に延びる変質

- 主要な北西方向の重力異常勾配帯に沿って、4つの高度粘土変質帯および関連する粘土変質帯を確認
- 菱刈、大口および布計の高品位鉍脈系が本変質帯の外側に位置していることから、本帯は極めて有望な探査対象と考えられる
- 同地域における過去の試錐は限定的
- すべてが初期段階の探査対象
- 変質帯周辺における鉍脈発見の可能性



九州中部地域

馬上鉱山

41万8,000オンス（約13トン）

- 単一の鉱脈から317,000オンス（平均金品位125.9 g/t、平均銀品位557 g/t）を産出

鯛生鉱山

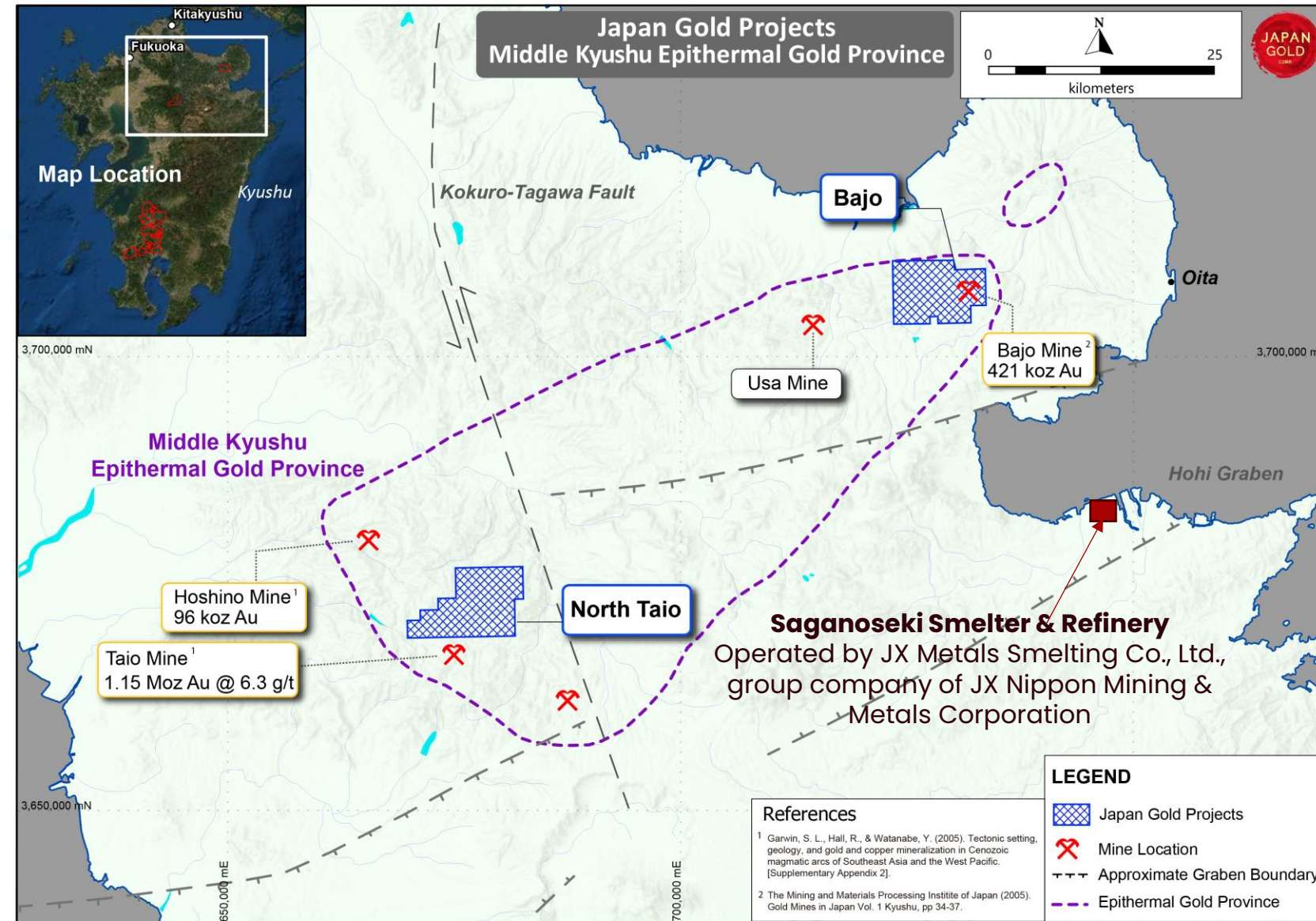
- 115万オンス（約36トン）
平均金品位 6.3 g/t

重点探査対象

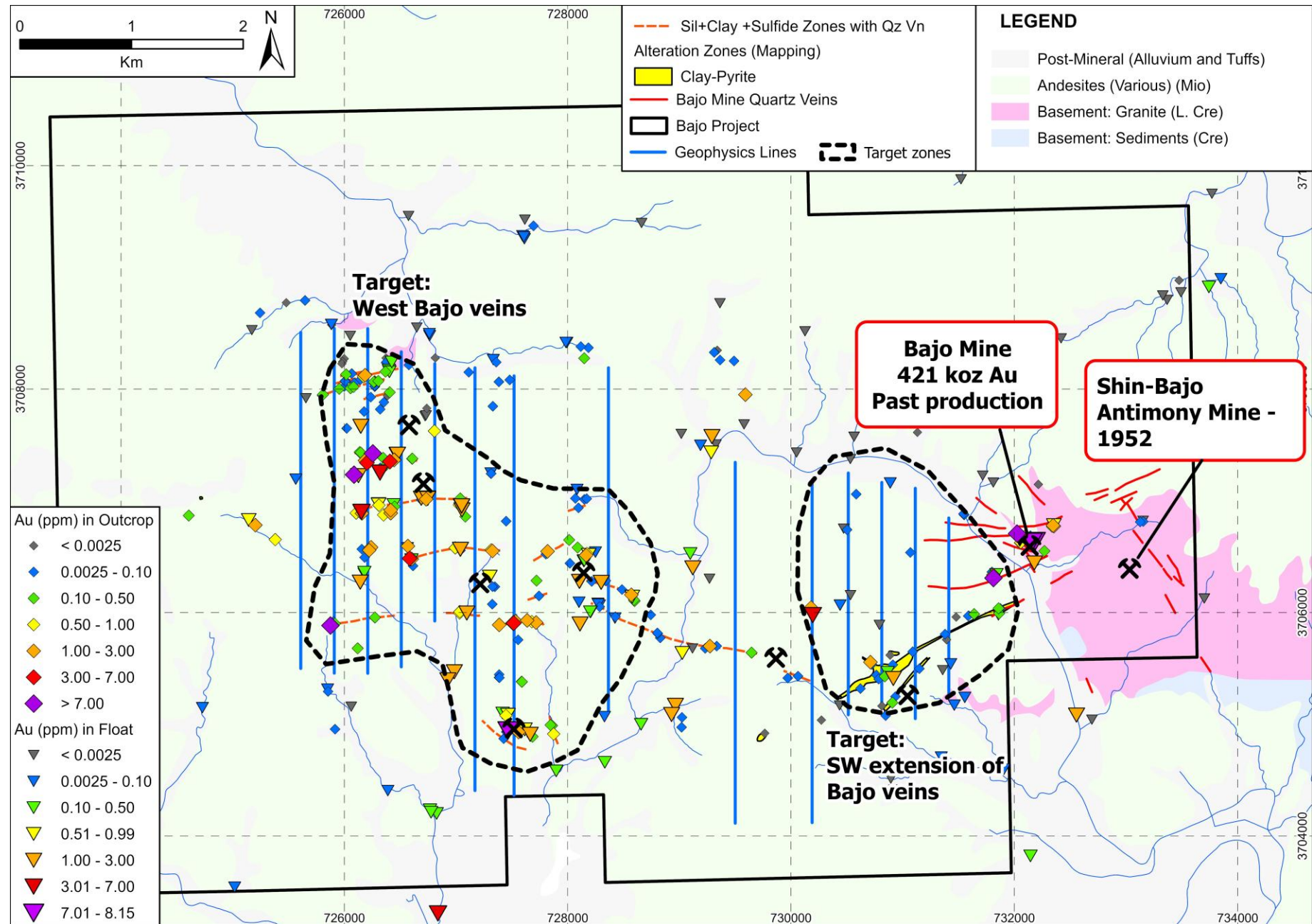
- 馬上鉱脈の南西延長
- 馬上西部鉱化帯

次段階の探査

- IP（電気探査）調査を完了
- 試錐調査地点の絞り込み



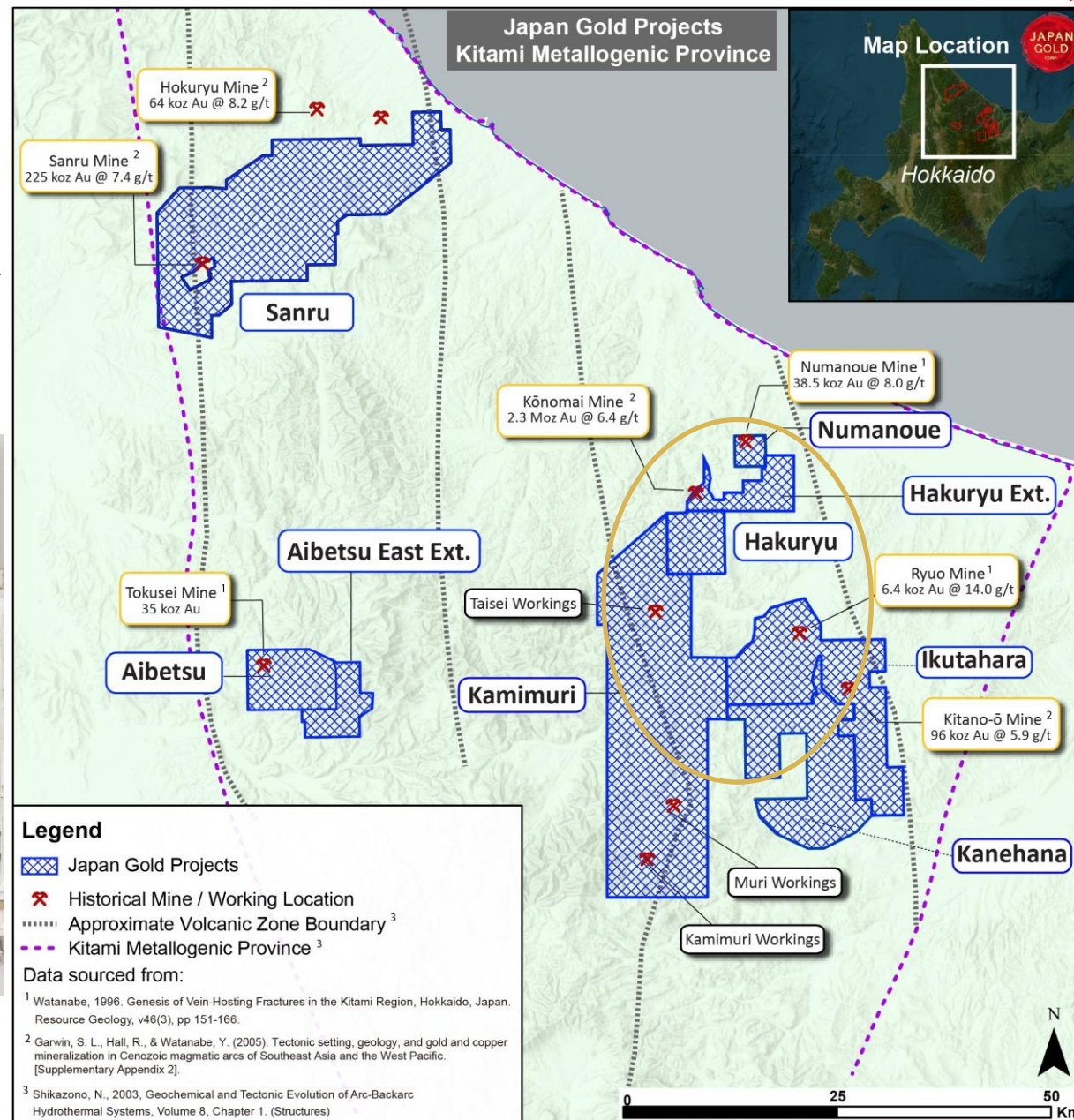
3次元IP物理探査



白龍 北海道

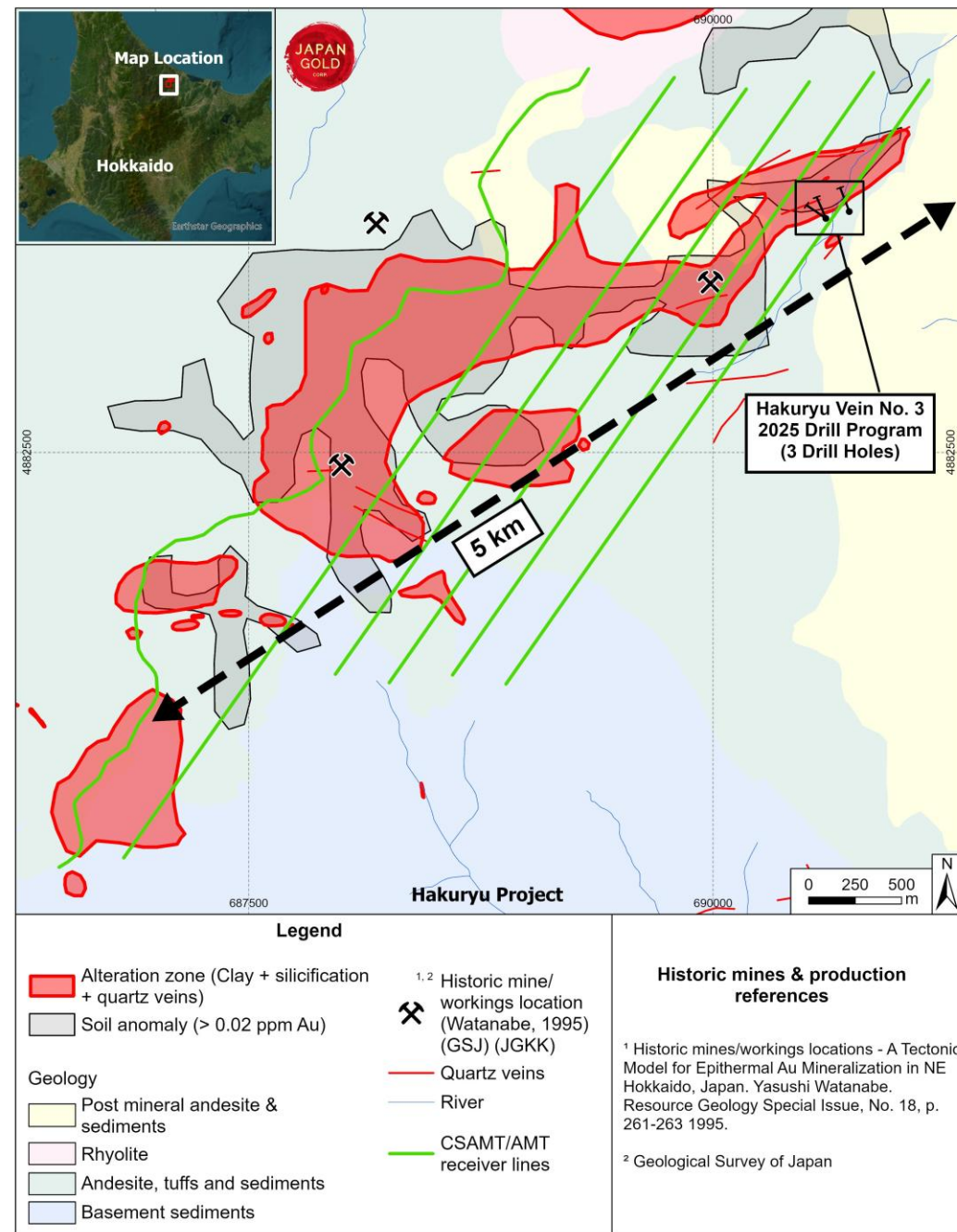
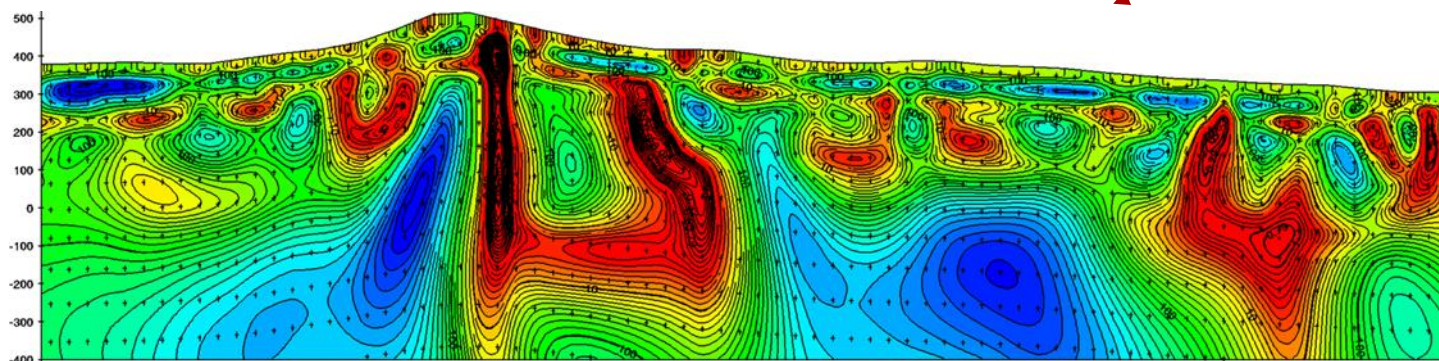
2025年

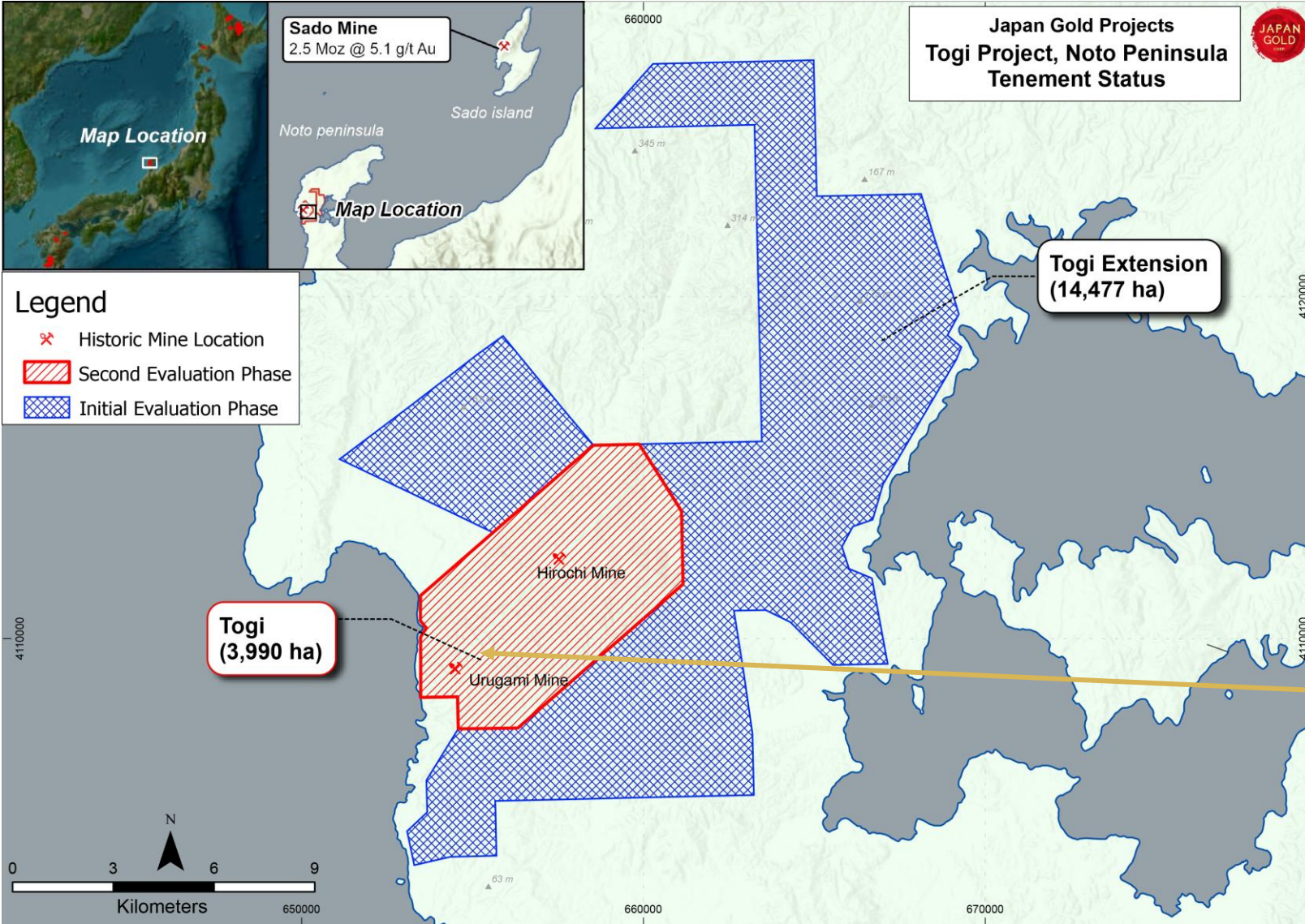
- 3本の試錐（総掘進長568m）により、**鉍化帯の連続性が145mの走向方向にわたり確認された**
- 最良結果：0.6m区間で金品位24.1 g/t



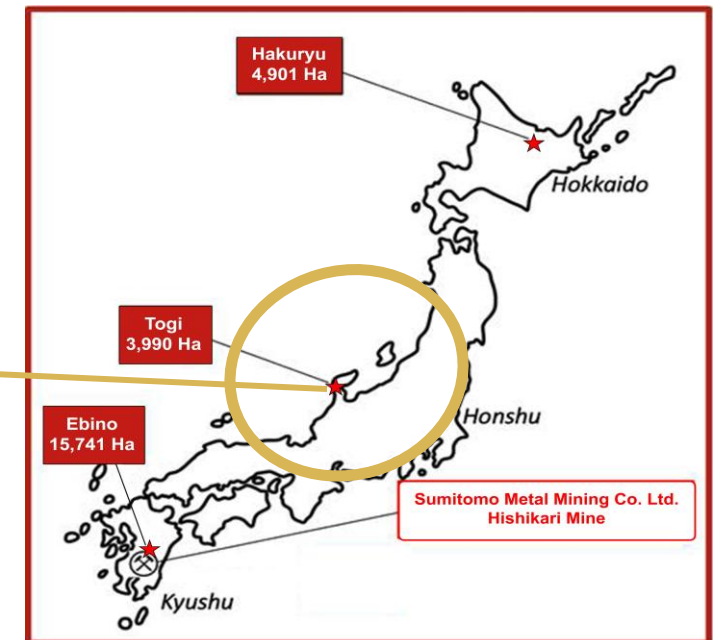
CSAMT／AMT物理探査

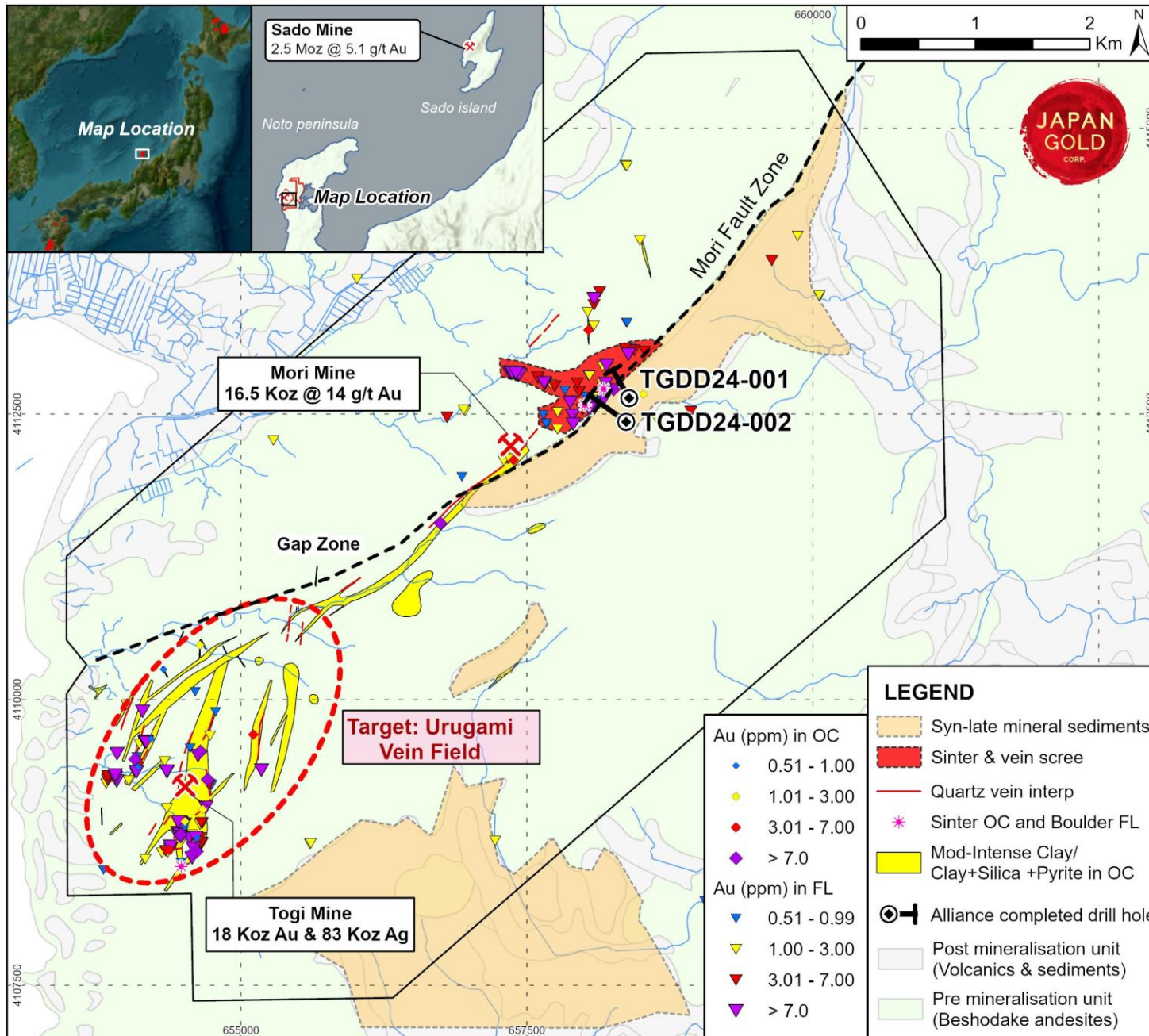
- 物理探査により、既知の変質帯や推定鉱脈の延長と一致する複数の比抵抗異常を確認
- 比抵抗異常は、約5kmにわたる有望な鉱脈方向への連続性を示唆
- 今後のボーリング調査計画を裏付ける結果





本州:
富来





富来

能登半島に位置する旧富来鉱山を中心とする地域

赤坂ターゲット

- 最初の試錐を完了し、2本の孔で合計1,000メートルを試錐した
- 薄い地層の下に良好に保存されている金鉱化システムを確認
- 鉱化システムは、既存の採掘跡から約1kmにわたり広がり、さらに2kmの走向方向に広がる可能性がある

北海道コア保管庫1（内部）



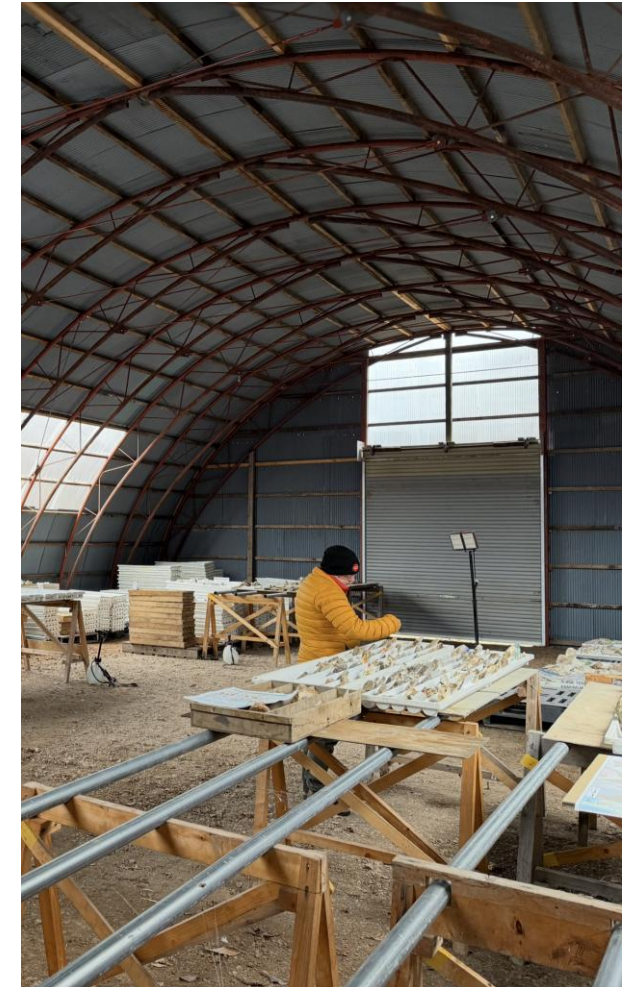
北海道コア保管庫2（内部）



北海道 拠点



北海道コア保管庫3（内部）



九州 拠点



CORE SHED



SLAB AND ROCK LIBRARY

経験豊富な 試錐チーム



Jason Letto, VP
Exploration

なぜJAPAN GOLDに投資するのか？

高品位の金鉱床を発見できる、他にはない探鉱機会

安定した社会・透明性のあ
る許認可制度

探鉱・開発活動を安心して
進めることができる環境



豊富な鉱山の記録

過去に高品位金鉱を産出した
鉱山周辺で、新たな鉱化
帯の発見が期待される



1945年以降、金属
資源の探査が十分
に行われていない

新たな発想・アプローチ
戦略的かつ体系的な探鉱
アプローチにより新たな
金鉱床の発見



世界的な機関投資家が
60%以上の株式を保有。
強固で信頼性の高い株主
基盤を形成



確かな実績を持つ世界トッ
プクラスの探鉱チーム



複数の重点探鉱地域で試錐
プログラムを実施中。
新たな金鉱床の発見のチャ
ンスが広がっています





**JAPAN
GOLD**
CORP.

Japan Gold本社

📍 Suite 650 - 669 Howe Street
Vancouver, BC V6C 0B4
Canada

☎ 電話: +1 (778) 725-1491

👤 広報担当
Alexia Helgason

✉ Email:
ahelgason@japangold.com

Japan Gold(株)東京事務所

📍 東京都港区赤坂一丁目14-5
アークヒルズエグゼクティブタワー
S801